

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑧4

「続日本紀（しよく）には「日本書紀」に
んぎ）」は「日本書紀」に

「続日本紀（しよく）には「日本書紀」に
んぎ）」は「日本書紀」に
次いで勅撰「天皇の命（め
い）」で編さんされた歴史
書で、697（文武天皇元
）791（延暦10）年の政
治、経済、社会、文化に関
するさまざまな出来事が記
されており、伊予国（愛媛
県）における感染症流行の
記録も含まれている。

706（慶雲3）年4月
には「伊予国等飢疫」、翌
707（同4）年12月には
「伊予国疫、給薬療之」と
あり、感染症が流行し、朝
廷から薬が給付されたこと
がわかる。同年後半の疫病
の記録は伊予国以外には確
認できず、翌年2月に讃岐
（香川県）、3月に山背（京
都府）、備前（岡山県）で
疫病により薬が給付され
た記事が出てくる。この
シーズンの疫病は、伊予国
が最初の感染拡大地域と
なり、徐々に西日本各地
に広がったと推測すること
ができる。これらが愛媛最

古の感染症関連の史料であ
る。

706年末には「天下諸
国疫疾、百姓多死。始作土
牛大儺」とあり、伊予国を
はじめ疫病で多くが亡くな
ったので、土製の牛を使っ
た被（はらえ）の儀礼「大
者を出すことになり、当
奈良時代は日本と大陸の
間で人やモノの交流が頻繁
に行われた時期でもあっ
た。その副作用として新型
の感染症が持ち込まれ、
国内で流行し、多くの死

難（たいな）」を実施して
いる。これは後に「追儺（つ
いな）」と呼ばれ、鬼を追
い払う節分行事の起源とな
った。現在の節分での鬼や
らいの起源も、古代の疫病
と関連していた。

（房前、武智麻呂、麻呂、
字合）を含めた数多くの貴
族も感染して亡くなり、朝
廷は一時、まひ状態に陥っ
た。このような世情を憂い、

伊予国で拡大疫病記す

者仍兼其豊大幸苦加以被賜地實止有二
三畝由是踰勢野池為境界自今以後不得
更察但氏氏租界及百姓宅租裁補為材并屬
二三十許步不在禁限○夏四月壬寅河内出
雲備前安藝淡路讚岐伊豫等國飢疫並復賑
恤之○五月丁巳河内國石川郡人河連朝臣
麻呂獻白鳩神五疋絲十約布二十端登
二十口正統三年○六月癸酉朔日有蝕之○
丙子命宗嚴初兩于名山大川○丙申從四位
下與射女主卒○秋七月壬子以從五位上巨
勢朝臣大益演為式部卿○辛酉以從五位下
笠朝臣麻呂為美濃守○乙丑丹波臣馬三國
山史遣使奏帝崩于神武御靈尊忽應不摸自
滅大倭國宇智郡瘴癘山火撲滅之電成辰以
從五位下阿倍朝臣真奈為大徐等臣已周
防國守從七位下引田朝臣秋庭等獻白鹿諸

「続日本紀」(江戸時代刊・県歴史文化博物館蔵)

聖武天皇は仏教への信仰を
深め、東大寺の盧舎那仏（る
しゃなぶつ、奈良の大仏）
の建立にもつながっていた。
た。

このように歴史の転換点
の背景として、感染症の流
行が関わっていた事例は数
多く見ることができると。
博物館では本資料も含め
感染症の歴史や民俗を紹介
するテーマ展「疫病退散」
を2021年1月24日まで
開催中。

（専門学芸員 大本敬久）
△月2回掲載します▽